

ぶぎん経営幹部養成塾レポート

次代を切り拓く若手経営者、企業の更なる成長を担う経営幹部を対象とした「第15期ぶぎん経営幹部養成塾2025」（武蔵野銀行・ぶぎん地域経済研究所共催）が10月24日にスタートしました。本年の塾生は過去最多の40名。2026年3月までの6か月で、経営者の分身としての思考・スキルを習得していただきます。今回は、11月上旬に2日間の合宿研修のかたちで行われた第2・3講、「企業戦略シミュレーション」の概要や塾生の皆さんの様子をレポートします。

1. 概要・タイムテーブル

11月6日（木）午前、塾生は熊谷市「ホテルヘリテージ」の研修室に一同に会しました。冒頭のオリエンテーションでは、株式会社タナベコンサルティングの神田明生講師が「バランス・タイミング・集中」という経営戦略策定の要諦、財務分析の基礎、そしてそれを踏まえて行う「企業戦略シミュレーション」のルールを解説しました。

午後1時、翌7日（金）午後まで繰り返し行われるオンラインによる「企業戦略シミュレーション」がスタートしました。

この実践演習では、塾生は4～5名ずつ、計8つのグループに分かれ、各グループが同じ業種の仮想企業を立ち上げます。そして、事業の持続的な成長を目指して、製造・開発、販売、資金調達、雇用・賃金など多岐にわたる企業戦略を決定しながら事業

を展開し、期毎に決算を行います。各グループはタイミングを合わせて意思決定内容をパソコンに入力し、その結果明らかになる各期のフローとストックの業績を他グループと競い続けました。

初日の夕食時には交流会が開催されました。高い集中力を要する日中のシミュレーション作業から解放され、塾生の皆さん同士、大いにリラックスして親交を深めました。中には、戦略立案や決断のタイミングなど、シミュレーションに関する情報交換を熱心に行う塾生もみられました。

一夜明けた8日（金）、研修室は定刻の午前9：30前から大変な熱気となりました。大勢の塾生が自主的に研修室に集合してディスカッションを行い、前倒して「企業戦略シミュレーション」を再開したためです。午後2時過ぎに最後の決算が行われ、業績トップのグループには、模擬の「定時



高まる集中力



講師によるオリエンテーション



熱気あふれるグループ討議会場

株主総会」を開催する荣誉が与えられる一方、資金繰りがつかずに破綻したグループには「債権者集会」の開催が求められました。その他のグループによる感想発表が行われて、2日間にわたる研修が幕を閉じました。

2.「企業戦略シミュレーション」の特徴

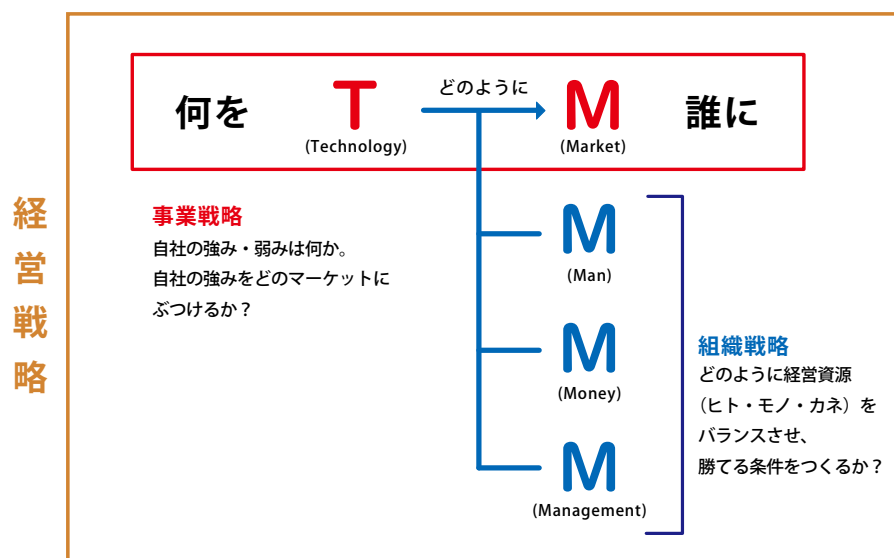
株式会社タナベコンサルティングによって開発された当シミュレーションの特色は、企業経営を体験できるリアリティの高さです。各グループでは、経営者のほか、製造・開発部門、販売部門などの役割分担を定め、それぞれの立場から戦略について議論を重ね、チームとして意思決定します。

その際、競合他社に打ち勝ち、企業を存続させる

ためには、実際の企業経営と同じく、「バランス」（経営資源や時間、環境を総合した資源配分）、「タイミング」（投資をするタイミングや時間的なズレ）、「集中」（会社の成長に向けたリスクテイク）を緻密に考え、各変数を設定する必要があります。こうした体験を通して、塾生の皆さんは自ずと経営戦略の「1T4M」を意識するようになり、俯瞰的視野に立った思考と意思決定を学びます。

なお、シミュレーション作業の間には、景気変動、材料費の変動、販売価格の変動、他社の倒産など、突発的なイベントやニュースも飛び込んできます。各グループには、そうした事象が先行きの市場や経営に与えるインパクトを加味しながら、臨機応変な意思決定を行うことも求められました。

戦略「1T4M」





事業戦略の検討



夕食・交流会



厳しい
資金調達交渉



優勝グループ
による
株主総会



講評

参加者の声

(カッコ内は所属企業での担当分野)

今回は、日頃担当していない分野のことも考慮しながら作業していただきました。それを通じて得られたものは？

- 経営的に必要なスキルがまだまだあるなと感じた。財務諸表も勉強が必要。設備投資や人を投入するタイミングは非常に勉強になった（工事事務責任者）
- 改めて「経営」は包括的に考えなければならないと痛感（企画・財務・人事）
- 経営とは全ての分野のバランスを考えて取り組み、足りない部分を補える人との繋がりを築く必要があると感じた（生産管理）

異業種の塾生とチームを組むことを通じて感じたことは？また所属した班のチームワークはどうでしたか？

- 数字と制限時間を意識して焦ったが、異業種でも基本となる部分は変わらないと感じた。皆さんが考えながら自主的に発言してくれていた（運営管理）
- 時間が経つに連れて、チームの焦りと一体感が生まれてきた。また同じチームで作業してみたい（生産管理）
- 最初は遠慮がちな雰囲気だったが、二日目に入ると実際に自分たちの会社との意識が出てきて活気ある作業が出来た（総合管理）

冒頭、講師からの「経営は『バランス』、『タイミング』、『集中』である」との話について思うことは？

- 今回の講義を終えて、タイミングは今まで考えていた以上に重要であると認識が変わった（販売促進）
- 人、モノ、カネのそれぞれにベストなタイミングがあり、現状把握をしっかりとしないと、バランスもタイミングも逃し、集中すべき点が的確に判断できないことを学んだ（工事事務責任者）

今回のようなシミュレーションは、自社の他の方にも勧めたいと思いますか？

- 会社に対する意識が変わる。自社の他の人も参加した方が良い（監理技術者）
- このような知識をもった社員が増えていくことが会社の発展に繋がると思う。他の社員にも勧めたいし、自分もリトライしたいと思った（生産管理）

「交流の場」として、今回の合宿研修をどのようにお考えになりましたか？

- 合宿という場だからこそ時間も長く交流ができる。合宿研修は良かったと考えている（運営管理）
- 様々な異業種の方との交流ができて学ぶことも多かった。早速、仕事の繋がりができた（生産管理）



「第15期ぶぎん経営幹部養成塾 2025」参加者の皆さん